



前進座公演

出前芝居  
まえしほり

いざい

# 層屋どいどい

—古典落語「井戸の茶碗」より—

くずや

台本 = 鈴木 幹二  
演出 = 高木 康夫  
装置 = 遠藤 正義  
照明 = 杵屋 邦寿  
音楽 =



第291回 旭川市民劇場6月例会  
2016年

6月10日 金 6:30

11日 土 1:30

上演時間 = 1時間40分 (休憩なし)

会場 = 旭川市公会堂

演劇で笑ったり、泣いたり、怒ったり。楽しく、大切な時間を、私たちと一緒に過ごしませんか。

●入会金	2,000円
●会費(月)	一般: 2,500円
	大学生: 1,000円
	高校生以下: 500円

詳しくは 旭川市民劇場まで  
会員になると年6回の演劇を鑑賞できます。  
TEL: 23-1655 住所: 旭川市3条通5丁目緑ビル1号館2F  
HP: <http://potato10.hokkai.net/~arenkan/>

会員、募集中。

大家さん  
清雁寺繁盛



屑屋さん  
柳生啓介



武家女房千代  
浜名実貴



高木佐太夫  
密村匠繪



千代娘しづ  
有田佳代



台本・演出 鈴木幹二

くずくず

屑屋でべんぐろ

「古典落語」井戸の茶碗「より」



あらすじ

りました。

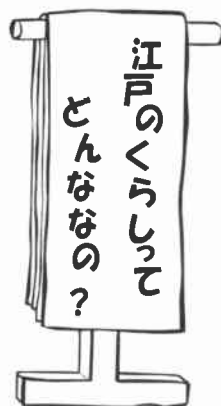
昔、江戸の町に清兵衛という  
正直で働き者の屑屋さんがお

ある日のこと、いつものようにその屑屋さんが裏長屋を回っておりますと、武家女房の千代とその娘のしづから呼び止められ、家に代々伝わる仏像を買って欲しいと頼まれます。屑屋さんは断ることが出来ずに、二百文で引き取り、これより高く売れたときには、そのもうけは半分にと約束しました。

屑屋さんが仏像を持って、白金の細川屋敷のお窓下を通りかかると、高木佐太夫という若侍の目にとまり、仏像はすぐに三百文で売れたのです。

ところが、仏像の中から出てきたものは：高木佐太夫と武家女房千代の間で翻弄される屑屋清兵衛。見かねた大家が口をきき、ついには細川の殿様まで巻き込んで、江戸中てんやわんやの大騒動に――。

おしげいのまに



江戸は「ゴミのない町だった！東京が江戸だったころ、訪れた外国人は、口をそろえて「ゴミが落ちておらず、きれいな町である」といつていたそうです。

江戸の町にはどうして「ゴミが落ちていなかったのでしょうか？」

江戸の人たちはどんな日常を過ごしていたのでしょうか？

お芝居をより深く味わっていただけるように、江戸の人たちがどのような暮らしをしていたのか、会場のみなさまと楽しみながら和やかにご紹介いたします。

感想文より

大家さんが私たちに語りかける……。観客参加型のお芝居は今までになかったと、とても新鮮でした。江戸の暮らしが手が取るように分かる解説はユ一モアにとみ、先人の知恵を興味深く学びました。三味線は素晴らしく、劇中に彩りを添えていました。貧しいけれど人情味溢れる人々の心の強さ、豊かさを感じ、今の時代を考えた時、「これで良いのか、もつと原点にかえらなければ」と一石を投げられました。

こんな心から笑えて、楽しむお芝居は初めて観ました。スツとお芝居の世界に入り込めて、本当に面白く温かい気持ちになりました。物の大切さ、正直な心についても学ばせていただきました。